

## 瀬田東 国際交流クラブ 活動報告書

### 「みんなワクワク地球人！——多肉植物の寄せ植えをします」

当クラブは、2015年6月、大津市立瀬田東幼稚園に通う園児の保護者の呼びかけから始まりました。当時、幼稚園には、近隣大学に通う留学生の子ども、国際結婚をして地域に定住する夫婦の子ども、海外赴任から帰国した夫婦の子どもたちが複数在籍していました。そこで、子育て支援の一貫として、「国籍を問わずに楽しく交流しよう！」を目的に、子どもも大人も多文化共生について学び、コミュニケーションをはかろうと活動し始めました。



キルギスのお母さんの発表。イスラム教の女性が覆うヒジャブの巻き方を教えてくださいました。通訳も保護者のひとりです。



インドネシアのお父さんの発表。日本語がとても上手で、笑いのたえない時間になりました。彼は、母国ではギタリスト！？だとか。



ウズベキスタンのお母さんの料理教室。2年間で、計4回も担当して下さり、「お料理会を通じて、本当の友達ができた」とおっしゃいました。

参加者も多国籍、年齢も赤ちゃんから高齢者まで、さまざまです。やがて、活動に関心を持った未就園児を抱えた保護者、外国籍の人たちの同郷の友達、一緒に活動したいと申し出て下さった近隣大学の学生や先生も参加されるようになりました。夏休みには、幼稚園の先生たちに発表する機会を持ちました。

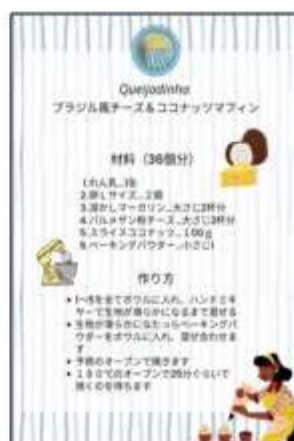
活動を通じて、国際交流とは特別なことではなく、顔を合わせる機会が増える中で、しだいに日常生活に浸透していくもの、という考えが共有されていったように思います。たとえば、「英語が話せないから気が引ける」と迷っていた人たちが、最初の一步を踏み出す機会になったり、料理を共に作ることで、「言葉以上の何か」が芽生える瞬間を感じとったりすることなどが挙げられます。

2020年2月、コロナがやってきました。そのため、有志数名が「できる範囲で」活動を継続してきました。しかし、外国籍の家族が抱える孤独や不安は、自分たちだけで解消できるものではありません。今こそ、当クラブの「安定的な」活動を再開し、日常生活のオアシス（いつも必ずそこにある彼らを照らす場所）になり得たいと考えました。

2021年7月、これまでの活動歴を瀬田東公民館の館長・職員に伝えたところ、当クラブは地域の施設を使用できる任意団体として認められました。以降、幼稚園や小学校という枠組みを超え、国際交流に関心を持つ誰もが参加できるクラブとして地域の中で認知されていきました。



ブラジルのお菓子作り。小5女兒がブラジルに居る大学生のお姉ちゃんの下書き（右）を元に、可愛いポスター（左）を作成してくれました。



ブラジル出身のお母さんは、「日本に15年住んでるけど、日本人と一緒に何かをしたことは初めて」と、涙を流されました。



そんな中、2021年6月と11月に開催した「生け花をします」会では、生け花にトライすることが外国籍の家族の心を晴れやかにし、彼らと共生を志す日本人も活力を得ることを体感しました。互いに互いをエンパワメントし合うことを経験し、今度は「寄せ植えは日本のものだけど、多肉は外国のものだから、外国ではどんなふうで育つか聞いてみたい」という声が中学生から出てきました。これこそ共生です。そこで、彼に講師になってもらい、2022年2月27日に「多肉植物の寄せ植えをしよう」と企画しました。



生け花は、日本人でも「初めてトライする」という人が多く、国際交流という名を借りて日本人自身が日本文化を見つめ直す貴重な機会になっています。



こうして、「多肉植物の寄せ植えを作ります」会の準備が始まりました。まずは、「鉢をどうしようか?」「3株ずつ植えてもらうことを想定して直径7cmの鉢にしましょう」「素焼きの鉢と白いペンキを塗った鉢、どっちがいいですか?」「両方にしよう!一人2鉢作ろう!」「僕がペンキ塗りをしておきます」「ありがとう」「皆、同じ多肉植物が良いか、いろいろな多肉植物の中から各自の好みに応じて選んでもらう方が良いか?」「わたしは決まった寄せ植えがいいから同じ方がいいと思う」「僕は自分の好きなように植えたいから違う方がいいと思う」「20人分、一人2鉢と考えてるので、単純に計算すると、 $40 \times 3 = 120$ 、予備を含めて、150~200ぐらいの多肉が必要。どうやって集めようか?」など、お花の専門家 (ohana chan) にも相談しながら、準備を進めていきました。



極寒の今冬、人数分の多肉植物を購入し、講師の自宅の手作りの温室の中で、多肉たちは、すくすくと育っていきました。ポスターも出来上がり、参加者を募りました。鉢にペンキを塗る作業、苗に入った多肉を一株ずつ小分けする作業、2種類の土を混ぜて寄せ植え用の土にする作業などを進めていた矢先、オミクロン株による感染急拡大というニュースが、連日報道されるようになりました。そのため、「開催するか否か?」を、貴事務局にも相談させていただきながら、最終的に、「当初2時間予定だったものを、参加者を2つのグループにわけて、1時間弱ずつで実施しましょう」と決めました。ただし、企画者や講師が感染した場合、参加予定の子どもたちのクラスが学級閉鎖になった場合は中止にする、という条件付きで、当日を迎えることになりました。





受付の準備、会場設置、感染対策の呼びかけなど、子どもたちが中心になって行いました。



第1部の始まり。小学2年生が自分たちで考えて開会の挨拶をしました。



「多肉植物が十八番！」という講師の中学生男児。前夜は緊張して寝られなかったそうです🥺



7センチの鉢に5株の多肉植物を植えるのはけっこう難しい…



「できた〜！！」お母さんより子どもの方が上手かも？！



初めて参加の小学1年生。よくがんばったね！！



そして、第2部へ。空気を入れ替え、次は小学5年生がメイン。



毎回参加のモンゴル出身の親子。お母さんは、「どれぐらい大きくなるの？」「どうやって植え替えたら良いの？」と、既にこれから先を心配されていました。



高学年になると、親子で一緒に何かに取り組む時間を持つことも、そんなにありません。貴重な時間です。



ペルー出身のお母さん。今回のポイントは、竹串や割り箸で土を「ザクザク♪」すること！



先生は一人ひとりへ細かなアドバイスを。1部の時よりも表情がほぐれてきたかも！



「見て！！わたしの作品」と自信满满におっしゃいました。



無事に終了し、閉会式。ありがとうございました！



「お花大好き！」というブラジル出身の親子。慣れた手つきで娘へ伝授。



家では見られない、掃除をする姿がありました。さすが！小学5年生。



今回の「多肉植物の寄せ植えを作ります」会は、当初2時間の予定で行うものでした。しかし、先にも述べたとおり、感染対策として、2つのグループにわけ、それぞれ1時間弱ずつで実施することになりました。このことにより、先生には、せっかく資料を作成していただいたにもかかわらず、資料を用いたレクチャーをじゅうぶんにしていただくことができませんでした。ここに、その資料を掲載させていただきます。

今、この報告書をご覧のみなさん、ぜひ先生の思いを受け取って、「何か」を感じていただければと思います。そして、その「何か」をわたしたちに届けに来ててください。お待ちしております。



### 多肉植物の寄せ植え (春秋型)の育て方

この寄せ植えに使っているのは、  
春秋型（はるあきがた）です。  
春秋型は、春と秋だけに成長し、  
夏と冬は休みます。

### 秋の育て方（9～11月）

ひかげに置いていたうえきばちを日当たりのいい  
場所にして日に当てます。  
水やりも1週間に1回に減します。  
11月ごろには水やりを2週間に1回にします。

### 冬の育て方（12月～2月）

寒くなってくると生長しなくなってきます。  
このまゝ外で育てると葉が凍って  
くそってしまうので、  
裏の中の白が当たる窓辺に置きます。  
水やりは月に1回くらいにします。

### 多肉植物とは？

多肉植物は、葉や茎、莖の一部に水分  
を蓄えている植物のことをいいます。  
雨があまり降らないまじしい場所に生えています。  
土に生えているのは、南アフリカやアメリカ、  
メキシコ、アルゼンチンなどです。  
多肉植物は肉つ季節のものがいて、  
春秋型・夏型・冬型の3つのタイプに分けられます。

### 春の育て方（3～5月）

多肉植物が育つ時期です。  
この季節は日当たりと風通し（かげれおし）のいい所に置き、  
たくさん水をあげます。  
水やりはうえきばちの中が乾いたら（1週間に1回ほど）、  
うえきばちの下から水が出るまでたっぷり水をあげます。

### 夏の育て方（6～8月）

暑さに強いので、水をあげずに  
風通しのいい場所の当たりひかげに置きます。  
水をあげてしまうと、  
うえきばちの中で根が腐って枯れてしまいます。

### 植え替え

春から秋にうえきばちの下から根が出てきたら、植え替えをします。  
植え替えの方法は二つあります。

①（注）

②（注）一つづつうえきばちに分けて育てる  
③（注）一回り大きいうえきばちに入れて育てる。

④（注）育てたほうが大きく育ち、手入れもしやすいです。

さいごに。閉会式で小学生たちが発表してくれた「国際交流について考えていること」をお伝えします。

👉「みなさんの中で、今度は、自分が先生になって何かを教えたい、という人がいらっしやったら、またご連絡ください。自分が先生にならなくても、何かやりたいこととか、ほかの人に先生をしてもらって、やってみたいことがある人は、ご連絡ください。また、考えてみます😊（小2女児）」

👉「前にブラジルの料理を作ったんですけど、それはとっても楽しかったです。今度は、他の国の料理を作ったり、ゲームをしたり、してみたいです。新しいことを、どんどんやっていけば、もっと楽しくなると思いました😊（小5女児）」

👉「イラスト的な、ぬりえみたいな、色を塗っていくことをしたいなと思っていました😊（小5女児）」

👉「今回のように、外国人との交流があることは、とても大切だと思うので、これからも交流を続けていってほしいです。そして、それに、わたしも参加していきたいなあと思いました😊（小5女児）」

👉「今回みたいに、外国人と交流して、みんなで作ったりするのはとても楽しかったです。また、お時間があるときは、この国際交流クラブで何かしていきたいと思うので、みなさん、参加してください😊（小5男児）」

👉講師の先生からも一言！「寄せ植え楽しんでもらってよかったです。育ててみてください。みんなの前でやってみて、楽しかったです。僕の好きな多肉植物を知ってもらえてよかったです。僕を選んでくれてありがとうございました。また国際交流クラブに誘ってください。」